

11年連続の金メダル

国際チャレンジデーに5791人

今年の国際チャレンジデーは五月二十五日に行われ、自治会や学校、事業所などが、早朝からラジオ体操やウォーキング、軽スポーツなどに取り組みました。参加した皆さんは、日ごろの運動の大切さを感じながら、さわやかなひとときを過ごしました。

このイベントは、毎年五月の最終水曜日、人口がほぼ同じ市町村の間で、午前零時から午後九時までに十五分以上の運動やスポーツを行った住民の参加率を競うものです。十一回目を迎えた本町は、五千七百九十一人が参加し、六七・三割の参加率になりました。



町高齢者大学では、受講生約360人が社会体育館でゲームやレクリエーションを楽しみました。

昨年の六八・六割にはわずかに及ばないものの、参加率六一割以上が対象となる「金メダル」を十一年連続で獲得しました。

一方、対戦相手の沖縄県知念村（人口約五千八百人）の参加率は九一・七割、昨年に続き特別対戦の北海道苫前町（人口約四千二百人）も八四・三割と高い参加率で、本町は残念ながら敗れました。

勝負は二の次ですが、「来年こそは」の期待を込め、ルールにのっとり敗れた二町村の旗が庁舎前ポールに一週間揚げられました。

葛巻建友会（久多良六太会長）では、十七事業所、五十六人が参加し、ソフトボール大会やターゲットバードゴルフなどで懇親を深めました。



Along The Way



道の途中で 22

クリス・シクルス
(指導主事助手・23歳)

桜に魅せられ320^{km}の旅

今年は桜がとても美しく、自転車に乗って県内の桜を見て回りたいと思い、友達の家に泊まりながら5月2日から3日間旅しました。

最初は北上の展勝地などに立ち寄って桜を見ました。江刺の友人宅に1泊し、翌日、東和と遠野を經由して川井村に行きました。その途中の風景は「岩手の美」の一部と言っているほどで、初めて訪れたわたしは深く感動しました。田瀬湖畔には、ほとんど人影がなく、桜が美しく風に揺れていました。

この旅に出る前に、教育委員会の人

たちが「自転車で山を越えるのは大変だよ」と警告してくれました。全くその通りでした。遠野から川井までの国道340号線の北上は、美しい風景とは裏腹に、狭い山道や大きな山を越えなければならず疲れ果てました。その翌日は少し肌寒く、新里と岩泉を經由し、大きな峠を2つ越えて葛巻に帰らなければなりませんでした。

約320^{km}の旅で、桜や美しい風景の写真をたくさん撮ることができました。それにも増して良かったことは、友達に会ったことや新しい友人に出会えたことです。

たくさんの美しい所を見て、それぞれの独自性、そして葛巻の独自性が分かりました。また、県南に比べて葛巻に春が来るのが遅いことを実感しました。周りの景色のほとんどが茶色で、まだ草木がもえていないときに、丘



大坊峠を越え、まだ旅は始まったばかり（右手町）

の上にたった1本咲いていた山桜の美しさやけなげさに魅せられました。

日本のようにきれいで安全で、互いに尊敬し合う国民性の国を自転車で旅することができ、とても良かったと思っています。そして、自分が住んでいる地域について昨年よりもずっとたくさんのことに気付いたと思います。それは、物事を見る目が変わったからなのかもしれません。残り3カ月の間に、日本についてもっとたくさんのことを発見し続けたいと思っています。